

平成 20 年 8 月 8 日
日本銀行盛岡事務所

岩 手 県 金 融 経 済 概 況

1. 概 況

県内経済は、弱めの動きとなっている。

最終需要の動向をみると、設備投資が底堅い動きを示しているが、公共投資と住宅投資が前年を下回って推移している。この間、個人消費は弱めの動きとなっている。

こうした中、雇用情勢は横這いの動きとなっているが、生産は引き続き低下傾向にある。

2. 最終需要

(1) 個人消費

個人消費は、2 度に亙る地震の影響から、観光産業への風評被害が広範囲に発生しており、総じてみれば弱めの動きとなっている。

(大型小売店売上高)

百貨店の売上高をみると、中元商戦がまずまずの売上げとなっているほか、クールビズ導入の広がりもあって、夏物衣料品が多少持ち直したことから、ほぼ前年並みで推移している。スーパーでは、夏物衣料品が低調なうえ、ガソリンや食料品等の値上げが続く中で、割安商品のまとめ買いや割安感のあるプライベートブランド商品へのシフトなどが続いており、前年をやや下回る動きとなっている。

(家電量販店売上高)

家電販売では、冷蔵庫、洗濯機などの白物家電は伸び悩んでいるが、ブルーレイを中心に DVD が好調なほか、薄型テレビやデジカメも順調に推移しており、全体でも前年をやや上回って推移している。

(新車登録台数)

7月の新車登録台数は、低燃費のハイブリッド車人気もあって、3ヶ月ぶりに前年を上回った。

(2) 公共投資

7月の公共工事請負金額は、4ヶ月連続して前年を下回った。

(3) 住宅投資

6月の新設住宅着工戸数は、全体に盛り上がり欠け、5ヶ月連続して前年を下回った。

(4) 設備投資

2008年度上期の設備投資計画(6月短観調査結果)をみると、非製造業は前年度を下回る計画となっているが、製造業は品質向上などの戦略投資を企図する先が散見され、前年度を上回る計画となっている。

(2008年度上期前年度比：製造業+49.3%、非製造業 39.7%、全産業+39.9%)

3. 生産動向

生産は、低下傾向にある。

(電子部品類)

電子部品・デバイスでは、欧米向けの需要は減少しているものの、中東や新興国向けの需要が伸びていることから、ほぼ横這いで推移している。

(輸送機械)

完成車は、米国の自動車需要は落ち込んでいるものの、燃費の良いコンパクトカーへの需要が高まっていることから、全体ではほぼ横這いで推移している。自動車部品は、新興国向けの需要好調を背景に高操業が続いている。

(一般機械)

建設機械部品は、新興国向けを中心に堅調に推移しているが、半導体製造装置が生産水準を引き下げているほか、工作機械も欧米向けの受注鈍化などから生産を抑制しており、全体では低下傾向が続いている。

(その他)

鉄鋼の線材は、自動車向け需要に支えられ、高操業を続けている。一方、窯業・土石、木材・木製品は、減産体制を続けている。食料品は、清涼飲料が堅調に推移しているが、水産缶詰が原材料コストの上昇などから減少傾向にあり、全体では横這いで推移している。

4. 雇用・所得の動向

雇用情勢をみると、6月の有効求人倍率(季節調整値)は0.62倍(前月:0.64倍)と2ヶ月連続して低下した。一方、新規求人倍率(同上)は0.91倍(前月:0.89倍)と3ヶ月ぶり上昇した。

この間、雇用者所得は、名目賃金が下げ止まってきたことから、ほぼ前年並みの水準となっている。

5. 企業倒産

7月の企業倒産(負債総額10百万円以上)は、件数9件(前年同月7件)、負債総額15億43百万円(同42億75百万円)と、件数は増加したが、負債総額は今年最小となった。

6. 金融面の動向

預金動向をみると、法人預金や公金預金が前年を下回っているものの、個人預金が増加していることから、全体では前年を上回って推移している。

一方、貸出動向は、住宅ローンは頭打ちになっているものの、積極的な融資開拓から法人向けが伸びているうえ、地公体向けも増加していることから、全体では前年を上回って推移している。この間、貸出金利は、やや低下している。

以 上

本件に関する問い合わせ先 日本銀行盛岡事務所 TEL : 019-624-3622 (代) http://www3.boj.or.jp/morioka/
--